

## 目 次

巻 頭 言 .....	森本 泰介
特集：第28回京都市立病院地域医療フォーラム	
〔特別講演〕	
医師で希少がん？それって最強かも ～ながらドクターの開き直り～ .....	石橋 武蔵..... 1(111)
がん患者の就労支援～仕事と治療の両面を支える～ .....	和田 学, 枚岡かおる, 埜村 順子.....11(121)
特集：第29回京都市立病院地域医療フォーラム	
〔特別講演〕	
がんゲノム医療の臨床実装と課題 .....	武藤 学.....20(130)
がんゲノム医療における遺伝カウンセラーの役割 .....	本田 明夏.....24(134)
研 究	
がんゲノム医療と連携病院としての京都市立病院の役割 .....	藤原葉一郎, 坪内万祐子, 森口 喜生, 桐島 寿彦 末次 弘実, 宮川 昌巳, 黒田 啓史, 松村 優子 前田 一枝, 津久間聖子, 森川 久美 本多 伸二 野田みゆき 藤田 尚樹, 松尾 尚子 中田 裕人, 大原 千明.....29(139)
当院における悪性腫瘍を合併した結核症例の検討 .....	小林 祐介, 高田 直秀, 西川 圭美, 太田 登博 吉岡 秀敏, 五十嵐修太, 中村 敬哉, 江村 正仁.....34(144)
難治性疼痛を有する終末期がん患者における症状緩和から自宅退院を可能にした一事例 .....	林 裕子.....39(149)
血液内科患者の転倒・転落についての分析と取り組み .....	神坂 早苗.....43(153)

## 症 例

股関節痛を主訴に受診した急性弛緩性脊髄炎の1例

.....勅使川原学, 杉立 有弥, 佐々木真之, 松下 浩子  
石田 宏之, 岡野 創造, 黒田 啓史  
清水 恒広  
船橋 茉莉, 井内 盛遠, 中谷 嘉文.....47(157)

## CPC報告

2018年度 CPC 報告

.....岩元 竜太, 岩佐 葉子.....52(162)

## 研究業績目録

原 著.....55(165)  
学 会.....61(171)  
マスメディア.....79(189)

## 巻 頭 言

この京都市立病院紀要 39 巻 2 号には、第 28 回と第 29 回の「地域医療フォーラム」講演内容と、院内からの症例報告、研究報告、各科の研究業績が掲載されています。

「地域医療フォーラム」で特に印象に残ったのは、第 28 回の「医師で希少がん？それって最強かも～ながらドクターの開き直り～」でした。ご自身が産婦人科の医師であり、まだ治療方法が確立されていない希少がんを患っておられた石橋武蔵先生の講演です。再発のため体調がすぐれないとの情報が直前に入り、講演に来て頂けないかもしれないと案じましたが、何とかお越し頂きました。講演では、患者が病気を告げられた時の心理を、告げられた立場で解説されたことや、希少がんになったのだから、その経験を医師として発信していこうとの開き直りに、心を強く打たれました。私自身も 7 年前、整形領域の難病で突然下半身完全麻痺になりました。私の病気も進行性ですが幸い良性であり、また元来体力に恵まれていたため、手術後の厳しいリハビリと筋力トレーニングにより、5 か月で通常勤務に復帰出来ました。しかし石橋先生の病気は悪性であり、病態の進行が速いものです。医師が患者になった際の心理が、自分の経験と重なりましたが、「石橋先生に比べて、私の病気ははるかに軽いから、もっと頑張らないといけない。」との意を強くできました。内容が非常に感動的だったので、フォーラム開催の約 1 か月後に、再度当院にお招きして、全職員を対象にして、「京都市立病院特別講演会」をお願いしました。その後はしばらく小康状態だったようですが、令和元年 10 月に訃報が届きました。医師であり患者であった石橋先生の言葉から、悪性疾患の治療に携わる全ての医師は多くのことを学んだと思います。その生き方に敬意を表するとともに、心からご冥福をお祈りします。

第 29 回は「がんゲノム医療の臨床実装と課題」と題して、京都大学腫瘍薬物治療学の武藤 学先生に、がんゲノム医療の基礎、現状、そして将来への課題を分かりやすく講演して頂きました。当院が京都大学附属病院を中核拠点病院として、その連携病院に認定される時期でしたので、「がんゲノム医療って何？」という単純な疑問に答えて頂き、これから我々は連携病院として何をやらねばならないかを考える基礎となりました。またこの診療に欠かせない遺伝カウンセラーをお願いしている、本田明夏さんにも講演して頂き、がんゲノム医療に対する理解と知識が広がりました。この領域はこれからどのように展開していくのか、私には見通せませんが、科学技術と医学の進歩により、癌のオーダーメイド治療ができる時代がやがて到来すると思います。

以上、平成の終わりに開催された「地域医療フォーラム」についての感想を述べ、令和の時代に入った京都市立病院紀要の巻頭言とします。

令和元年 12 月

京都市立病院機構京都市立病院

院長 森 本 泰 介

